

IR NAVI

アイアール
ナビ
vol.20

株主の皆様へ／取締役社長 小林喜光

●第8期中間決算のご報告

“KAITEKIの実現”

チャレンジ!! KAITEKI

薄くて軽い“有機太陽電池”を実現

グループの協奏で、創電の効率化に取り組む

もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス

事業会社の枠を超えて、事業のシナジーを最大限に発揮する

ミッションコーディネーターについて

証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第8期 中間期のご報告

平成24年4月1日 ▶ 平成24年9月30日

株主の皆様へ

取締役社長

小林 喜光

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期（平成24年4月1日から9月30日まで）における当社グループの事業環境は、機能商品分野及び素材分野においては、中国など海外市場の需要が低迷し、円高が継続するなど厳しい状況でありましたが、ヘルスケア分野は、本年4月の薬価改定の影響があったものの、堅調な需要に支えられ、概ね良好でありました。

当上半期の連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りですが、売上高は1兆5,297億円となり、利益面では、営業利益は411億円、経常利益は338億円、当期純利益は33億円となりました。当期の中間配当金につきましては、当上半期の連結業績、中長期的な安定配当等を総合的に勘案し、1株につき1円増配の6円とさせていただきます。

当社グループを取り巻く事業環境は、海外景気の低迷等により厳しい状況となっておりますが、当社グループは、中期経営計画「APTSIS* 15」のもと、国際競争力を有する事業の強化・拡充と強固な財務基盤の構築を図るとともに、収益の回復と

向上にグループ一丸となって取り組んでまいります。さらに、グループ理念「Good Chemistry for Tomorrow 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」のもと、「KAITEKI」の実現、すなわち、人間にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適の実現に向けた諸施策を推進してまいります。また、本年7月に当社、三菱化学、三菱樹脂及び三菱レイヨンの本社並びに田辺三菱製薬のオフィスの一部の東京都千代田区の新オフィスへの集約・統合が完了し、これにより事業会社間の協奏による総合力のさらなる強化と効果的・効率的な組織運営を図ってまいります。さらに、最優先課題である安全管理の徹底はもとより、コンプライアンスやリスク管理の重要性について各従業員に再徹底を図ってまいります。

当社グループは、これらの経営諸課題にグループの総力を挙げて対処し、企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

CONTENTS

- 株主の皆様へ……………1
- 連結業績の概要……………2
- セグメント別業績……………3
- 各事業会社の活動・トピックス……………5
- “KAITEKIの実現”
チャレンジ!! KAITEKI……………7

- もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス
事業会社の枠を超えて、事業のシナジーを最大限に発揮する
ミッションコーディネーターについて……………9
- 財務諸表の概要……………11
- 株式の状況……………13
- 会社概要……………14

*「APTSIS」とは、**A**gility（俊敏に、とにかく速く）、**P**rinciple（原理原則・理念の共有）、**T**ransparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、**S**ense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、**I**nternationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、**S**afety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

連結業績の概要

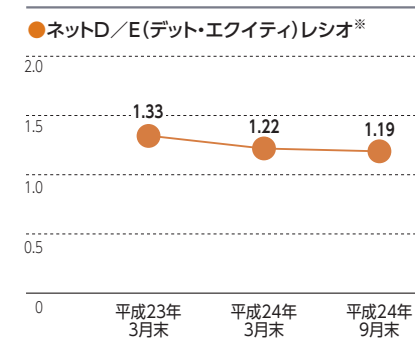
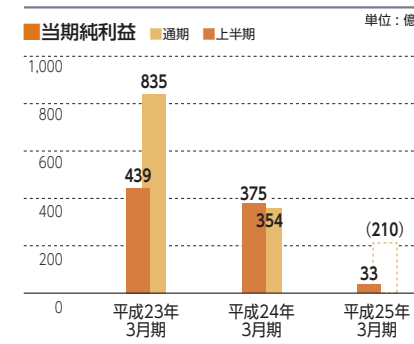
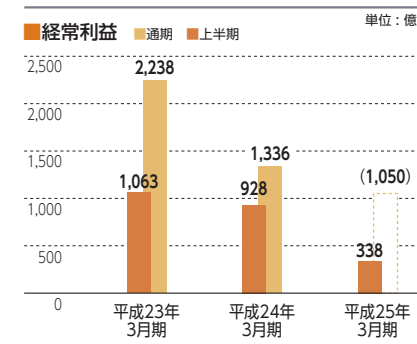
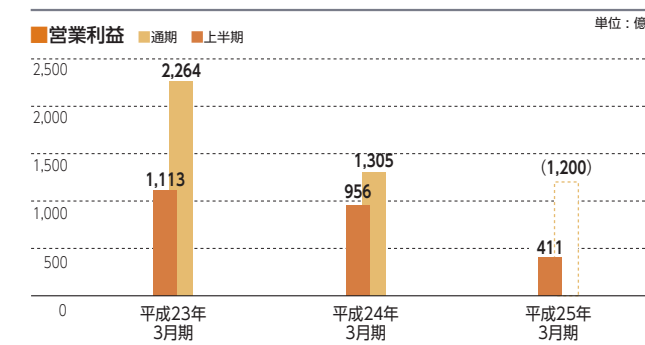
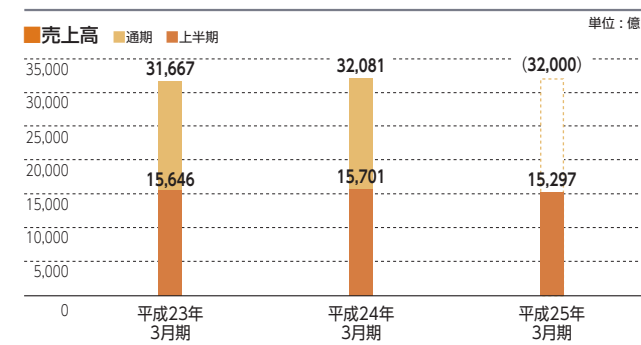
海外市場の需要低迷等による厳しい事業環境の中、減収・減益となりました。

海外市場の需要低迷や円高の継続など、厳しい事業環境が継続

当上半期は、中国など海外市場の需要が低迷し、円高が継続するなど、厳しい事業環境となりました。当上半期の連結業績は、売上高は1兆5,297億円（前年同期比404億円減）となり、利益面では、営業利益は411億円（同545億円減）、経常利益は338億円（同590億円減）、当期純利益は33億円（同341億円減）となりました。

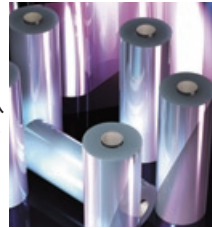



ネットD/Eレシオが0.03ポイント改善

総資産は、主に営業債権の減少、保有株式の時価下落、関連会社株式の売却に伴う投資有価証券の減少などにより、3兆1,042億円（前期末比696億円減）となり、また、負債は、主に有利子負債が減少したことにより、1兆9,715億円（同574億円減）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.19となりました。



*ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - （現金・現金同等物+手元運用資金残高）} ÷ 自己資本
※（ ）内の数値は、平成24年11月1日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。

セグメント別業績

	単位:億円		三菱化学	田辺三菱製薬	三菱樹脂	三菱レイヨン			
機能商品	<p>エレクトロニクス・アプリケーションズ</p> <p>売上高 698 (前年比+11%) / 1,337 (前年比+91%)</p> <p>営業利益 △11 (前年比-11%) / △53 (前年比-48%)</p> <p>売上高構成比 3.9%</p>	<p>デザイン・マテリアルズ</p> <p>売上高 3,550 (前年比+10%) / 3,404 (前年比+9%)</p> <p>営業利益 183 (前年比+10%) / 104 (前年比+6%)</p> <p>売上高構成比 22.2%</p>					<p>《売上高》604億円(93億円減)</p> <p>記録材料…外付けハードディスクの販売数量が減少、DVD市場の縮小</p> <p>電子関連製品…冷陰極管向け蛍光体等の製造販売が終了</p> <p>情報機材…OPC、トナーの販売数量が減少</p> <p>《営業損益》△13億円(1億円減)</p> <p>販売数量の減少により減益</p>	<p>《売上高》3,404億円(145億円減)</p> <p>食品機能材…販売が概ね順調に推移</p> <p>電池材料…販売数量の減少、販売価格の低下</p> <p>樹脂加工品…非光学用ポリエステルフィルム等の売上げが減少</p> <p>複合材…炭素繊維の需要減少に伴う市況軟化により売上げが減少</p> <p>《営業利益》104億円(78億円減)</p> <p>販売数量の減少により減益</p>	
ヘルスケア	<p>ヘルスケア</p> <p>売上高 2,467 (前年比+10%) / 5,024 (前年比+91%)</p> <p>営業利益 397 (前年比+10%) / 763 (前年比+91%)</p> <p>売上高構成比 16.3%</p>					<p>《売上高》2,507億円(40億円増)</p> <p>医薬品…主力製品の売上げが順調に拡大、新製品の売上げへの寄与、ロイヤリティ収入の増加</p> <p>診断製品…前年同期並み</p> <p>臨床検査…前年同期並み</p> <p>《営業利益》360億円(37億円減)</p> <p>販売費及び一般管理費の増加により減益</p>			
素材	<p>ケミカルズ</p> <p>売上高 4,661 (前年比+10%) / 10,074 (前年比+91%)</p> <p>営業利益 193 (前年比+10%) / 148 (前年比+8%)</p> <p>売上高構成比 28.9%</p>	<p>ポリマーズ</p> <p>売上高 3,354 (前年比+10%) / 3,419 (前年比+9%)</p> <p>営業利益 222 (前年比+10%) / 28 (前年比+2%)</p> <p>売上高構成比 22.3%</p>					<p>《売上高》4,436億円(225億円減)</p> <p>基礎石化製品…エチレンの生産量54万6千トン</p> <p>合成繊維原料…テレフタル酸の市況の大幅な下落</p> <p>炭素製品…コークスの原料炭価格の低下に伴う販売価格の低下</p> <p>《営業損益》△53億円(247億円減)</p> <p>テレフタル酸の原料と製品の価格差の大幅な縮小等により減益</p>	<p>《売上高》3,419億円(64億円増)</p> <p>合成樹脂…MMAモノマー、フェノール・ポリカーボネートチェーンの市況が下落</p> <p>《営業利益》28億円(193億円減)</p> <p>MMAモノマー等の原料と製品の価格差の大幅な縮小等により減益</p>	
その他	<p>その他</p> <p>売上高 969 (前年比+10%) / 2,058 (前年比+91%)</p> <p>営業利益 16 (前年比+10%) / 61 (前年比+91%)</p> <p>売上高構成比 6.0%</p>					<p>《売上高》924億円(45億円減)</p> <p>エンジニアリング事業…外部受注の増加</p> <p>物流事業…概ね順調に推移</p> <p>《営業利益》25億円(9億円増)</p> <p>固定費の減少により増益</p>			

※平成24年3月期より、一部の連結子会社について「ポリマーズ」から「デザイン・マテリアルズ」へ所属セグメントを変更しております。これに伴い、比較情報としての平成24年3月期実績を組み替えております。

三菱化学

機能商品

- 塗布成膜プロセスで製造した有機EL照明で、実用レベルの長寿命と高効率化を達成し、量産技術の確立に向けた検証設備の設置を決定（6月）
- ビーエーエスエフ社（ドイツ）との間で、リチウムイオン二次電池向けビニレンカーボネートに関する特許を同社に使用許諾する旨のライセンス契約を締結（6月）
- 日本合成化学工業が、熊本工場において偏光フィルム用OPLフィルムの生産能力を増強することを決定（9月）

ヘルスケア

- 三菱化学メディエンスが、ヘパリン起因性血小板減少症の診断補助に有用な情報を提供する試薬「ヒーモスアイエル HIT-Ab (PF4-H)」の本格販売を開始（9月）

素 材

- 鹿島事業所において、リチウムイオン二次電池等の原料として使われるエチレンカーボネートの生産能力の増強を決定（6月）
- 鹿島事業所において、石油化学製品の高機能・高付加価値化に向けた体制構築のため、基礎石油化学事業の構造改革の一環として第1エチレンプラント等の停止を決定（6月）

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- ベネシスの血漿分画事業を、日本赤十字社が6月1日に設立した日本血液製剤機構に10月1日付で譲渡し、事業を開始することを合意（5月）
- 2型糖尿病治療剤「TA-7284」について、導出先のヤンセンファーマシューティカルズ社（米国）が米国及び欧州で承認を申請（5,6月）
- 多発性硬化症治療剤「イムセラ」について、3月の日本薬学会創薬科学賞受賞に続いて、第37回井上春成賞を受賞（7月）
- 共同開発先である阪大微生物病研究会が、沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ（セービン株）混合ワクチン「テトラビック」について、日本国内における製造販売承認を取得（7月）
- 2型糖尿病治療剤「テネリア錠20mg」の販売を開始（9月）



第37回井上春成（はるしげ）賞贈呈式



2型糖尿病治療剤「テネリア錠20mg」

三菱樹脂

機能商品

- 小型で高効率な除湿機「AQSOAデシカント除湿機」の本格販売を開始（5月）
- 坂出工場において、アルミナ繊維「MAFTEC」の製造設備を増強（5月）
- 中国において、農業ハウス用高性能フィルムの製造販売会社を設立（5月）
- 鏡面仕上げのアルミ樹脂複合材の新製品「アルポリック/rr リフレクティブフィニッシュ」が国土交通大臣の不燃材料認定を取得（6月）
- 三菱樹脂グループの管材事業を積水化学工業に譲渡することについて合意（7月）
- 長浜工場において、リチウムイオン二次電池用セパレータの製造設備が竣工（7月）



アルミナ繊維「MAFTEC」



鏡面仕上げのアルミ樹脂複合材「アルポリック/rr リフレクティブフィニッシュ」

三菱レイヨン

機能商品

- 省スペース、低エネルギー消費を特長とする膜分離活性汚泥法用中空糸膜「ステラポアー」の新製品を開発（4月）
- 豊田通商との間で、中国の大手水処理エンジニアリング会社の子会社に共同出資し、中国における水処理O&M（運転・管理）事業を開始することに合意（4月）
- 三菱レイヨン・クリンスイが、新発想の携帯型浄水器「クリンスイ タンブラー」の販売を開始（4月）
- 日本錬水が、水処理事業のグローバル展開強化の一環として、シンガポールにおいて、エムアールシーレンスイアジア社を設立（7月）
- 三菱レイヨンと三菱樹脂の炭素繊維を使用したアスリート向けゴルフクラブシャフト「Diamana」Bシリーズの販売を発表（9月）



携帯型浄水器「クリンスイ タンブラー」



「Diamana」Bシリーズ

“KAITEKIの実現” 「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍の実現」

—“KAITEKI”を社会に幅広く発信—

私たちは、三菱ケミカルホールディングスグループが目指す“KAITEKIの実現”に向け、KAITEKIの考え方を多くの方に知っていただくためにさまざまな取り組みを行っています。

当社グループの特長と方向性を紹介する「KAITEKI SQUARE」

KAITEKI SQUARE

当社グループの新ショールーム「KAITEKI SQUARE」が、本年10月に東京都千代田区丸の内の本社（パレスビル）11階にオープンしました。

「KAITEKI SQUARE」は、常設展示・特別展示ゾーンと、コンセプトゾーンの2つに分かれています。常設展示では、APTSIS 15の創造事業や成長事業を中心に、当社グループの事業領域や目指す方向性をわかりやすく紹介しています。また、特別展示は、年2～3回更新し、現在は当社グループの考える「新炭素社会」について紹介しています。

さらに、コンセプトゾーンでは、最新の音響・映像装置や情報端末を用いてゲーム形式等で見学者の方にも参加していただく体験型の展示となっています。



住所:東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル11階

KAITEKI を発信する「KAITEKI CAFE」

【KAITEKI】 CAFE



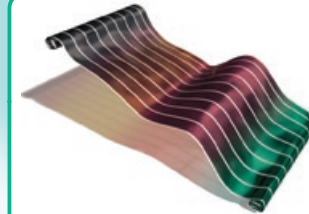
当社グループが提案するKAITEKIを発信する場として、「KAITEKIな時を過ごしてほしい。KAITEKIを感じてほしい。」をコンセプトに、本年9月に東京都千代田区大手町の大手町ビル1階に「KAITEKI CAFE」がオープンしました。

「KAITEKI CAFE」では、安心・安全な食材や循環型社会に配慮した包材などを積極的に採用し、お客様の健康づくりをサポートするお料理をご用意しています。

また、店内設備には、KAITEKIに貢献する当社グループの製品を多く使用しています。

【店舗情報】

住所:東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル1階
営業時間:月～土 11:00～24:00 日祝休
TEL:03-6212-8886
ホームページ:www.kaitekicafe.jp



チャレンジ!! KAITEKI 03

薄くて軽い“有機太陽電池”を実現 グループの協奏で、創電の効率化に取り組む

塗布型有機薄膜太陽電池を開発

次世代の太陽電池として注目を集めている「有機太陽電池」。

当社グループでは、三菱化学が長年培ってきた有機合成技術、有機半導体技術を応用して、世界トップレベルとなる変換効率11%の有機薄膜太陽電池の開発に成功しました。

特長は、結晶シリコン系等の従来製品に比べて重さが1/10以下と非常に軽い上に、柔軟性が高く、簡単に曲げられることです。そのため、工場や駅舎のスレート屋根等、重い太陽電池パネルを設置するには強度の足りない建物にも設置可能なほか、自動車にも貼れるなど、用途が大きく広がります。

グループの協奏による成果

軽量・フレキシブル・高効率な有機太陽電池パネルを実現するには、耐久性を高めるための、封止材料、バリアフィルム、接着層材料等の周辺部材技術が重要です。開発にあたって、当社グループ内の協業を推進し、総合化学ならではの集積技術力により、実用化検討を加速しています。また、新しい太陽電池の設置方法等システム設計においても、当社グループ内の協奏を最大限活かした事業開発を行っています。

2015年までに市場に投入

2008年の開発開始時には約3%だった変換効率が、2011年には11%となり、有機太陽電池では世界トップレベルとなる変換効率を達成しました。また、2013年には、パイロット設備が稼働し、量産技術検討を加速して、2015年の市場投入を目指します。

当社グループは、今後もKAITEKIの実現に向け、さらなる技術の開発を続けていきます。

塗布型有機薄膜太陽電池の ここが KAITEKI

軽量化と柔軟性を実現

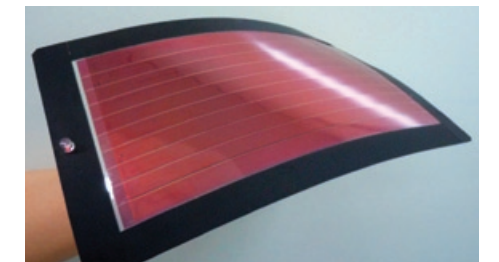
ビルの壁面や電気自動車のボディなどさまざまな場所へ設置が可能で、将来のスマートコミュニティに貢献

デザイン自由度が高い

設計の自由度が高く、薄く、柔軟であるため、意匠性の高い太陽電池の設計ができる。将来、発電層を変えることにより、色のバリエーションも増え、透明化等も可能

製造による環境負荷が少ない

連続塗布生産方式により、製造時の使用エネルギーが小さく、大量生産に向くので、再生可能エネルギーの普及に貢献

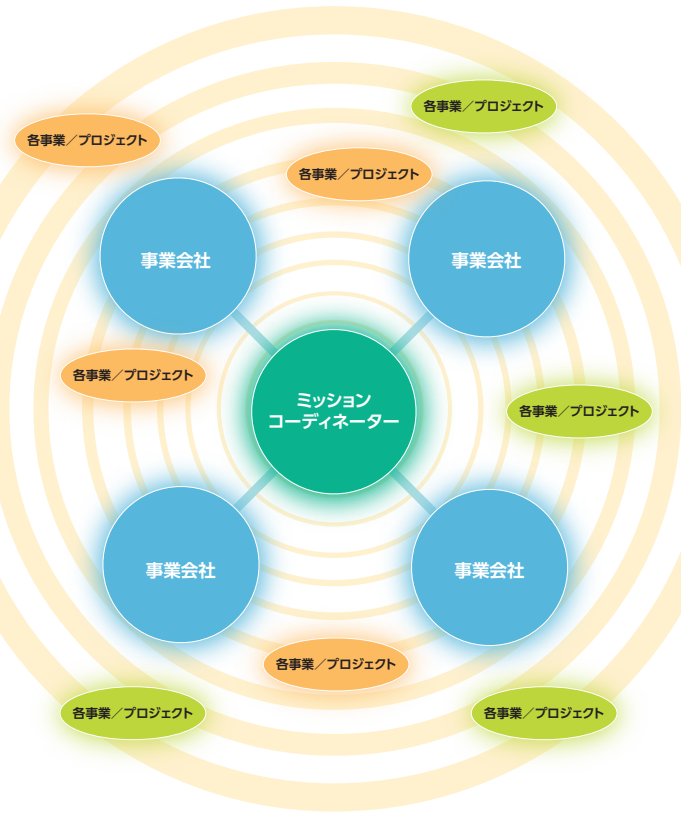


しなやかで軽いのが特長の「塗布型有機薄膜太陽電池」

事業会社の枠を超えて、事業のシナジーを最大限に発揮する ミッションコーディネーターについて

ミッションコーディネーターの任命

当社グループは、各事業会社の枠を超えてグループ内の「協奏」を高め、シナジーを最大限に発現させるため、本年4月1日、各事業会社の社長を「ミッションコーディネーター」に任命しました。



グループ全体の戦略立案・遂行と事業運営の指導・助言

ミッションコーディネーターは、自ら担当する事業分野についてグループ全体の戦略を立案し、遂行します。また、立案した戦略について各事業会社との共有化を図り、事業会社における事業運営について適宜指導、助言を行います。

ミッションコーディネーターが担当する事業分野

各事業会社の社長がミッションコーディネーターとして担当するのは、早期にシナジーの発現が期待される以下の事業分野です。ミッションコーディネーターは、自ら担当する事業分野のシナジーの発現に向けたアクションプランを策定し、遂行していきます。

ミッションコーディネーター	担当
三菱化学株式会社 取締役社長 石塚 博昭	スペシャリティケミカルズ
田辺三菱製薬株式会社 取締役社長 土屋 裕弘	ヘルスケアソリューション
三菱樹脂株式会社 取締役社長 姥貝 卓美	樹脂加工・情報電子
三菱レイヨン株式会社 取締役社長 越智 仁	炭素繊維複合材・ アクア関連部材



ミッションコーディネーターの取り組み内容

スペシャリティケミカルズ

■当社グループのスペシャリティケミカルズ事業像を明確にし、グループ各社とのシナジー発現に向けた事業領域を選定した上で、事業プラットフォームの強化に向けた戦略を立案し、遂行する。



三菱化学株式会社
取締役社長 石塚 博昭

ヘルスケアソリューション

■当社グループにおけるヘルスケア関連のリソースを組み合わせ、ヘルスケアソリューション事業におけるグループ全体の協奏を高めることにより、人工炭酸泉、見守りゲイトその他の事業の推進に関する戦略を立案し、遂行する。



田辺三菱製薬株式会社
取締役社長 土屋 裕弘

樹脂加工・情報電子

■有機太陽電池、白色LED/有機EL等の部材の相互利用やグループの技術・商流を結集し、当社グループの協奏を高めることにより、事業の高収益化を実現するための戦略を立案し、遂行する。



三菱樹脂株式会社
取締役社長 姥貝 卓美

炭素繊維複合材

■PAN系・ピッチ系炭素繊維等を保有するグループ各社の協奏を高め、航空機、自動車、一般産業用等の分野において、特徴あるビジネスを実現するための戦略を立案し、遂行する。



三菱レイヨン株式会社
取締役社長 越智 仁

アクア関連部材

■当社グループの水事業を起点に、技術・ノウハウの協奏により経済成長の低い日本でも成り立つ新しいビジネスモデルを開発するとともに、それにより海外展開をさらに加速する。

「さあ、協奏だ。」の広告で 第39回日経産業新聞広告賞を受賞

本年4月23日、7月13日に日経産業新聞に掲載した「さあ、協奏だ。」をメインコピーとした当社の広告が、第39回日経産業新聞広告賞 素材・産業機器・サービス部門準部門賞を受賞しました。

本広告には、本社移転と4事業会社の本社機能集約を機に、当社グループとして「協奏」と「KAITEKI」社会の実現を目指す」というメッセージが込められています。

日経産業新聞広告賞を含む日経広告賞は、「時代を先取りし、これからの時代にあった広告活動の指針になるすぐれた作品に日経広告賞を贈りたい」という考えのもと1952年の第1回目以来毎年行われています。本年は、審査対象980点の中から61点が受賞となりました。

当社グループは、今後も皆様とのコミュニケーションを通じて、当社の事業活動をご理解いただけるよう努めてまいります。



4月23日版



7月13日版

財務諸表の概要

連結貸借対照表

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [平成24年9月30日現在]	前期 [平成24年3月31日現在]
(資産の部)		
流動資産	13,474	13,777
現金・預金	913	1,147
受取手形・売掛金	5,656	5,933
たな卸資産	5,204	5,160
その他	1,723	1,559
貸倒引当金	△ 22	△ 24
固定資産	17,568	17,962
有形固定資産	10,301	10,327
投資有価証券	3,215	3,468
のれん	1,399	1,418
その他	2,652	2,748
資産合計 Point 1	31,042	31,739

Point 1 **資産合計**
資産合計は、主に受取手形・売掛金が減少したことにより減少しています。

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [平成24年9月30日現在]	前期 [平成24年3月31日現在]
(負債の部)		
流動負債	10,280	10,701
支払手形・買掛金	4,030	4,112
短期金融債務	3,691	3,963
その他	2,559	2,625
固定負債	9,434	9,588
長期金融債務	7,554	7,677
その他	1,880	1,910
負債合計 Point 2	19,715	20,290
(純資産の部)		
株主資本	8,295	8,316
資本金	500	500
資本剰余金	3,176	3,176
利益剰余金	4,726	4,747
自己株式	△ 107	△ 107
その他の包括利益累計額	△ 647	△ 608
新株予約権	6	6
少数株主持分	3,673	3,735
純資産合計	11,327	11,449
負債及び純資産合計	31,042	31,739

Point 2 **負債合計**
負債合計は、主に有利子負債（短期金融債務及び長期金融債務）を削減したことにより減少しています。

連結損益計算書

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [自平成24年4月 1日 至平成24年9月30日]	前上半期 [自平成23年4月 1日 至平成23年9月30日]
売上高	15,297	15,701
売上原価	12,096	11,938
販売費・一般管理費	2,790	2,806
営業利益	411	956
営業外収益	113	162
営業外費用	186	190
経常利益	338	928
特別利益	88	70
特別損失	125	165
税金等調整前四半期純利益	301	833
法人税、住民税及び事業税	215	237
法人税等調整額	△ 58	24
少数株主利益	111	196
四半期純利益	33	375

Point 3 **営業外収益**
営業外収益は、主に持分法による投資利益の減少により減少しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [自平成24年4月 1日 至平成24年9月30日]	前上半期 [自平成23年4月 1日 至平成23年9月30日]
税金等調整前四半期純利益	301	833
減価償却費	635	704
たな卸資産	△ 61	△ 565
営業債権債務他	72	△ 76
営業活動によるキャッシュ・フロー	948	895
有形・無形固定資産取得	△ 605	△ 530
有価証券・投資有価証券取得	△ 436	△ 236
その他	372	637
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 669	△ 129
有利子負債	△ 303	△ 632
配当金他	△ 206	△ 205
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 510	△ 838
現金・現金同等物に係る換算差額	0	14
現金・現金同等物の増減	△ 230	△ 58
現金・現金同等物の期首残高	1,330	1,437
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	3	7
現金・現金同等物の四半期末残高	1,103	1,386

Point 4 **投資活動によるキャッシュ・フロー**
投資活動によるキャッシュ・フローは、主に手元資金の運用における有価証券売却収入の減少により、支出が増加しています。

株式の状況

株式の状況 (平成24年9月30日現在)

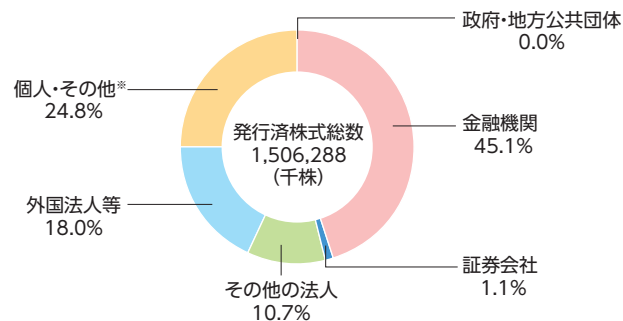
会社が発行する株式の総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	198,703名

大株主 (平成24年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	77,549	5.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	73,259	4.8
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.2
武田薬品工業株式会社	51,730	3.4
日本生命保険相互会社	49,429	3.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,105	2.7
東京海上日動火災保険株式会社	34,184	2.2
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	31,415	2.0
太陽生命保険株式会社	29,338	1.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	23,177	1.5

※上記のほか、当社が自己株式として30,166千株を保有しておりますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有していません。

所有者別株式分布の状況 (平成24年9月30日現在)



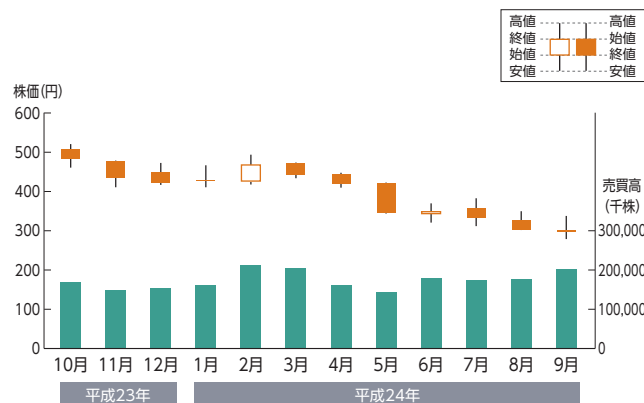
※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

配当の状況

1株当たり配当金(円)			
	平成23年 3月期	平成24年 3月期	平成25年 3月期
中間	5	5	6
期末	5	5	(6)
合計	10	10	(12)

※()内の数値は、平成24年11月1日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。

株価・株式売買高の推移(東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用下さい。

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>



当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

三菱ケミカル

会社概要

会社概要

商号	株式会社三菱ケミカルホールディングス (英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
本店所在地	〒100-8251 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号 (パレスビル) 電話 03-6748-7200
資本金	500億円

取締役 (平成24年9月30日現在)

小林 喜光	代表取締役 取締役社長	
吉村 章太郎	代表取締役 副社長執行役員	経営管理室、 広報・IR室(IR)分担 グループ基盤強化室 (共通基盤強化所管)
露木 滋	取締役 副社長執行役員	経営戦略室、 広報・IR室(広報)分担 グループ基盤強化室 (エリア戦略、マーケティング、 自動車関連事業推進、情報 システム所管)
田尻 象運	取締役 専務執行役員	グループ基盤強化室 (製造、RC所管)
石塚 博昭	取締役	
土屋 裕弘	取締役	
姥貝 卓美	取締役	
越智 仁	取締役	

監査役 (平成24年9月30日現在)

山口 和親	常勤監査役
中田 章	常勤監査役
西田 孝	常勤監査役
鶴田 六郎	監査役 弁護士
水嶋 利夫	監査役 公認会計士

※西田 孝、鶴田六郎、水嶋利夫の3氏は、社外監査役であり、また、当社は社外監査役の3氏を、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

執行役員 (平成24年9月30日現在)

大平 教義	常務執行役員	人事室長
唐津 正典	常務執行役員	グループ基盤強化室 (購買、物流、エンジニアリング 所管)
津田 登	常務執行役員	内部統制推進室長 総務室分担
		コンプライアンス推進統括執行役員
浦田 尚男	執行役員	グループ基盤強化室 (R&D、知的財産担当)
長田 雅宏	執行役員	経営管理室長
木曾 誠一	執行役員	ヘルスケアソリューション室長
田中 良治	執行役員	グループ基盤強化室 (エリア戦略、マーケティング、 自動車関連事業推進担当)
二又 一幸	執行役員	CEOオフィス部長
和賀 昌之	執行役員	経営戦略室長

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 (〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及び電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

単元未満株式の買取・買増制度について

当社では、単元未満株式（500株未満の株式）の買取のほか、買増を請求できる制度も導入しておりますので、単元未満株式をご所有の株主様は、ご利用をご検討下さい。

なお、ご利用の際は、証券会社の口座でお持ちの株式については、お取引先の証券会社でお手続下さい。

また、特別口座でお持ちの株式については、当社の特別口座の口座管理機関までお問い合わせ下さい。

〈特別口座の口座管理機関及び連絡先〉

口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

証券会社の口座への振替について

特別口座に株式をお持ちの株主様が、株式を売買される場合は、あらかじめ特別口座から証券会社の口座への振替が必要となりますので、お早めにお手続下さい。

IR NAVI アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をよりわかりやすく株主の皆様へナビゲーティング（道案内）していきたいという意味を込めております。